

社会基盤整備特集

自然災害に備える 建設技術者の使命



土砂流出により斜面に推定200トンの巨石が出現。監視カメラ、動きを感知するセンサーを取り付け常時監視している＝丹波市市島町徳尾

命と安全を守る 縁の下の力持ち

丹波市を中心に全半壊や床上浸水など計1014軒の家屋が被害を受けた8月16日の丹波豪雨災害。その現場で、いち早く被災地の人々の命と安全を確保するとともに、日常生活や産業活動を元通りにするために復旧作業に当たったのが土木・建設技術者たちだ。どのような思いで現場に向かい、作業に従事したのか。当時を振り返りながら、建設技術者の使命を語ってもらった。

(取材協力)兵庫県建設業育成魅力アップ協議会

丹波豪雨災害の体験を聞く



家屋が全壊した現場跡。左の斜面で崖が崩れ民家を押しつぶした。道路まで土砂が押し寄せ通行不能となった＝丹波市市島町徳尾



宇都善和氏

青木氏 川の中歩き被害状況確認 宇都氏 二次災害防止へ迅速対応

8月16日に起きた丹波豪雨災害で、県や市業者の皆さんに緊急工はどのような対応をしたのか。 宇都 当日の朝、事務所にいる管理職の前山地区で土砂が流れ込んでつぶれている状況の確認に走った。車が入って来た。すぐに現場に出向いて状況を確かめた。川の中を歩き、山へ確認した。県は建設業協会丹波支部と災害時

り、協会を通じて建設業者の皆さんに緊急工はどのような対応をしたのか。 宇都 当日の朝、事務所にいる管理職の前山地区で土砂が流れ込んでつぶれている状況の確認に走った。車が入って来た。すぐに現場に出向いて状況を確かめた。川の中を歩き、山へ確認した。県は建設業協会丹波支部と災害時



青木一典氏

苦勞したこと、うまくでき、二次災害防止に。 宇都 今度は崖崩れなどが多数発生し、山川は小さい川が多い。すその住宅や道路が被災した。また、河川が埋塞し、集落や農地の浸水が連鎖的に拡大した。そのため、被害情報の収集が難しかった。国、県、市が連携し、相互に補完しながら状況を把握した。その結果、迅速な交通規制などが

止めになっている。すぐに土砂撤去に向かっていた。だが、そこにたどり着くまでの道も崖崩れで、ところどころで寸断されていた。土を取り除き、道を開きながら何とか現場に入った。



矢野善也氏

河川の状況はどうだ。 青木 護岸が決壊した箇所は、被害が拡大しないよう土嚢などを積んで応急処置を行った。土砂が川をふさいでいるところは、次の雨で二次災害が起きないよう、川を流れやすくするための土砂の撤去も行った。 長澤 ある河川の現場、あと一日で土砂の撤去が終わるとい

矢野氏 住民の感謝の声 励みに

「河川の状況はどうだ。 青木 護岸が決壊した箇所は、被害が拡大しないよう土嚢などを積んで応急処置を行った。土砂が川をふさいでいるところは、次の雨で二次災害が起きないよう、川を流れやすくするための土砂の撤去も行った。 長澤 ある河川の現場、あと一日で土砂の撤去が終わるとい

青木氏 川の流れ確保へ土砂撤去

「河川の状況はどうだ。 青木 護岸が決壊した箇所は、被害が拡大しないよう土嚢などを積んで応急処置を行った。土砂が川をふさいでいるところは、次の雨で二次災害が起きないよう、川を流れやすくするための土砂の撤去も行った。 長澤 ある河川の現場、あと一日で土砂の撤去が終わるとい



長澤大介氏

長澤氏 大雨で作業振り出しに

「河川の状況はどうだ。 青木 護岸が決壊した箇所は、被害が拡大しないよう土嚢などを積んで応急処置を行った。土砂が川をふさいでいるところは、次の雨で二次災害が起きないよう、川を流れやすくするための土砂の撤去も行った。 長澤 ある河川の現場、あと一日で土砂の撤去が終わるとい

- 兵庫県丹波土木事務所 公園砂防課課長補佐 宇都 善和氏
 - 森津工務店 矢野 善也氏
 - 丹波市建設部建設課主幹 青木 一典氏
 - 村岡組 長澤 大介氏
- 座談会出席者



上流から大量の土砂が流入、川を完全にふさいだ。大雨が続き同じ場所まで土砂撤去を2度しなければならなくなった＝丹波市市島町竹田

宇都氏 自己防災の意識啓発へ 長澤 作業員には、なげこでこのような被害が起きたのか、を考えるとどうしようもない。昔から住んでいる高層者の方は、この水がよく出るという考え方も違う。一つは、雨の降り方、住民の考え方も違う。一つは、現場ごとに土質も違う。一つは、雨の降り方、住民の考え方も違う。一つは、現場ごとに土質も違う。一つは、雨の降り方、住民の考え方も違う。一つは、現場ごとに土質も違う。

矢野氏 雨の怖さ伝えていきたい 長澤氏 一番やりがいのある仕事

「建設業界の役割、魅力について若い世代に伝えたいこと。 矢野 先輩から「お前が死んでも、造ったものは残る」と言われた。達成感のある仕事なので、自分が責任持ってやっていた。 長澤 うちの会社では、高校生インターンシップを受け入れて、少しでも現場を知ってもらいたい。 矢野 現場で作業をしながら、雨の降り方、住民の考え方も違う。一つは、現場ごとに土質も違う。一つは、雨の降り方、住民の考え方も違う。一つは、現場ごとに土質も違う。